

単元名:文化祭で中華模擬店を開こう																																	
科目名	中国語	作成日	2012/4/1	作成者	若森幸子																												
学年/年次	2年生	クラス人数	12人	使用教科書と課	-																												
話題分野	買い物/食	言語レベル	1	必要時間数	45分×9回(2コマ×4週+1)+文化祭																												
I 単元目標																																	
<p>学校の文化祭の機会を利用して、中華料理の模擬店を開き、近くの団地に住む中国人を招待し、中国語で接待することを通して、買い物や食のテーマに関わるコミュニケーション表現を身に付け、自分たちの中国文化に対する理解を深めとともに、地域に住む中国人の日本の学校文化に対する理解を促進することにもつなげる。</p>			<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>言語</th> <th>文化</th> <th>グローバル社会</th> <th>学習者</th> <th>教室外</th> <th>他教科</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>わかる</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>できる</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>つながる</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				言語	文化	グローバル社会	学習者	教室外	他教科	わかる							できる							つながる						
	言語	文化	グローバル社会	学習者	教室外	他教科																											
わかる																																	
できる																																	
つながる																																	
言語領域	文化領域	グローバル社会領域																															
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 模擬店に来た中国人と挨拶をしたり、注文を聞いたり、会計をしたりすることができる。 ◆ 近隣の中華料理店でメニューを見て理解することができる。 ◆ 中国人への案内状を作成することができる。 ◆ 模擬店のメニューを作成することができる。 ◆ 注文が聞き取れないときのため、メニューを持ち指差してもらうようにすることができる。 ◆ 数が聞き取れないときは、指で示したりや筆記してもらったりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 中華料理店で中国人と日本人の注文品の違い、接客の違いを聞き、その理由を考えることができる。 ◆ 中国の様式を理解し、飾り付け、色彩などを模してお店を作ることができる。 ★学習者のコミュニケーション能力レベルに応じて、日本語の助けを借りて行ってもよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ インターネットで中華料理店のホームページを見てメニューを調べることができる。(情報活用) ◆ PC中文ワープロ機能を使い、案内状、メニュー、アンケートを作成することができる。(情報活用) ◆ クラスメイトと協力して模擬店をつくることことができる。(協働) ◆ 地域の中国人居住者がその地域で果たしている役割を理解する。(知識理解) ◆ 中国語と中国文化の理解が、地域の中国人居住者の助けになることを実感する。(知識理解) ★学習者のコミュニケーション能力レベルに応じて、日本語の助けを借りて行ってもよい。 																															
<p>コミュニケーション能力指標</p> <p>【話題分野:食】</p> <p>1-a.お店の看板(レストラン、食堂、ファストフードなど)を見て理解できる。</p> <p>1-b.レストランなどで、従業員を呼ぶことができる。</p> <p>1-c.必要なもの(メニュー、箸、皿、紙ナプキンなど)を、要求することができる。(アレンジ:要求に答えることができる)</p> <p>1-d.食べたいものや飲みたいものを、メニューのなかから探すことができる。</p> <p>1-e.メニューを指して、数量や有無を確認しながら注文できる。(アレンジ:注文を受けることができる)</p> <p>1-f.料理の味や状態についての簡単な感想(おいしい、甘い、辛い、薄い、熱いなど)を述べたり、受け答えをしたりできる。</p> <p>1-g.残った料理を持ち帰りたいと頼むことができる。</p> <p>1-h.お店で食事の会計をすることができる。</p> <p>1-i.食べたい料理やおいしいと思った料理、行きたい店や気に入った店の名前などを、メモできる。</p> <p>【話題分野:買い物】</p> <p>1-b.基本的な接客表現を、聞いて理解できる。(アレンジ:聞いて理解でき、言うことができる。)</p> <p>1-c.メモを見せたり、身ぶり手ぶりを交えたりして、自分が買いたいものがあるかどうかを、尋ねることができる。(アレンジ:相手が買いたいもの)</p> <p>1-d.店員に値段を尋ねて数字を示してもらうなどして、価格を把握できる。(アレンジ:客から値段を尋ねられて、数字を示すなどして価格を伝えることができる。)</p> <p>1-e.購入する意思の有無を、口頭で伝えることができる。(アレンジ:聞いて理解できる。)</p> <p>★言語領域の「できる」の目標を設定する際に参照した指標。他の領域の目標設定とも連動している。 数字は【言語レベル-指標表番号】を表示している</p>																																	
II 評価																																	
学習を助けるための評価 (形成的評価)			目標達成度を測る全体的評価(総括的評価)																														
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 互いに質問しあい、中華料理の絵・写真と中国語の名称を結びつける。(正しく聞き取り、また読み取る力など) ◆ 数詞、量詞、月日、時間、お金の語彙・表現をカレンダーや時計を使って言う。(意味の理解度、伝わる発音と声調など) ◆ 店員と客の役になって接客表現を使ってロールプレイを行なう。(表現の適切な使用、伝わる発音と声調、流暢さ、積極性など) ◆ ペアになって料理の感想について尋ねたり言ったりする。(適切な表現の使用、伝わる発音と声調など) ◆ 案内状のサンプルを読み取る。(日時、場所など内容の把握など) 			<ul style="list-style-type: none"> ◆ 中国語の案内状を作る。(適切な情報、正しい表記、見やすいレイアウトなど) ◆ 文化祭当日の模擬店で、お客さんに中国語で挨拶し、注文を受け、接待する。(適切な表現の使用、正しく聞き取る力、伝わる発音と声調、流暢さ、積極的に適切な対応など) ◆ レポート(分析ポイントの適切さ、自分らしさ、表現力など) 																														

Ⅲ 学習活動		
プレコミュニケーション活動 (語彙・表現習得活動)	コミュニケーション活動 (学習シナリオ)	
<p>◆互いに質問しあい、中華料理の絵・写真と中国語の名称を結びつける練習をする。 【食:1-d】</p> <p>◆数詞、量詞、月日、時間、お金の語彙・表現をカレンダーや時計を使って言う練習をする。【食:1-e/買い物:1-d】</p> <p>◆店員と客の役になって、接客表現を使ってロールプレイを行なう。【食:1-b,c,d,e,g,h/買い物:1-b,c,e】</p> <p>◆ペアになって料理の感想について尋ねたり言ったりする。【食:1-f】</p> <p>◆案内状のサンプルを読み取り、グループで自分なりの案内状を作る。【食:1-a,1-i】</p> <p>★【 Ⅰ】内は対応するコミュニケーション能力指標</p>	<p><場面状況> サクラ高校では、近くに団地があって、生徒の保護者を含む中国人が多く住んでいる。中国語のクラスでは秋の文化祭で、中華料理の模擬店(調理はせず、完成品を仕入れる)を出すことにしたので、団地の中国人に来てもらうことにした。</p> <p><活動の流れ> 中華料理にはどのようなものがあるかを調べ、メニューや料理法を挙げる。近隣の中国人経営の中華料理店に行き、店の様式、メニュー、接客の方法などを観察するとともに、中国人と日本人では注文品が違うか、接客方法が違うかなど取材する。教室に戻り、お店での接客、注文、会計に必要な表現、語彙を書き出す。 クラスで相談して、模擬店のメニュー(数品)を決める。グループごとに、中国語の案内状を作成する(日時、場所、店の名、メニューを入れる)、お客さんに配布するアンケートを日本語と中国語で作る、開店のための大道具、小道具を準備する、飾りつける、仕入れをする仕事を分担する。文化祭当日にメンバー全員が接客できるように担当時間や順番を決めておく。 出来上がった案内を団地の中国人に出す。文化祭当日に来店した中国人のお客さんを相手に挨拶、注文、会計を中国語で行う。中国人を含むお客さんにアンケートに答えてもらい、回収する。反省会を開き、アンケートの回答を読み取り、分析し、それを踏まえて、模擬店の企画、運営、成果や課題について日本語でレポートにまとめる。</p> <p>メモ ◆近くに中国人の多く住んでいるところがない場合は、中国人留学生、ALTや教師の知人などの中国人に来てもらう。 ◆案内状を一軒ずつ家を訪ねてわたすと来てくれる確率が高くなる。 ◆文化祭の後、仕入れ先の中国料理店に行き、お礼を述べる。もし模擬店で利益がでたら、そこで食事をする(自分たちがお客になる)。</p>	
<p><使用教材・教具> 中華料理店のメニュー、PC、食材、食器、カレンダー、時計</p>		
表現と表現のポイント	語彙	文化・グローバル社会事象と事象のポイント
<p><表現> ◆挨拶 你好!/欢迎光临。/再次光临。 ◆接客の表現 你要什么?/谢谢! ◆会計の表現 买单。/一共多少钱?/…日元。 ◆注文の仕方、受け方 你要哪个?/我要这个。/你要几个?/我要一个(两个/三个)。/有~吗?/有。/没有。 ◆日時の言い方 10月20日/上午9点15分到12点 ◆料理の感想、アンケートの表現 这个很好吃。/有点儿…/太…/我喜欢。/你觉得怎么样?/非常好/很好/还可以。</p> <p><表現のポイント> “要”“有”“没有”“吗”“喜欢”“请…”“这个”“数詞+量詞+名詞”“哪个”“什么”“给我”“来”形容詞述語文“怎么样?”“二/两”</p>	<p>元、日元、块、中国菜、日本菜、吃、喝、好、好吃、好喝、喜欢、有点儿、非常、太、还可以、甜、酸、苦、辣、咸、数詞(一、二、两…、一百、一千五百、など)、量詞(个、杯、盘、双、など)、月、日、点、分、上午、下午、盘子、筷子、菜单、杯子、いろいろな料理名(包子、饺子、面条、米饭、饼、炒~、烧~、煮~、炸~、など)、服务员、打包</p>	<p><事象> ◆中国料理 ◆中華料理店 ◆接客のマナー ◆食事のマナー ◆中華料理の伝わり方</p> <p><事象のポイント> ◆中華料理店で、食器や箸の日中の違いに気付く。 ◆中華料理店で、内装の特徴をつかむ。 ◆中華料理店で、日本人と中国人の好みの違いの理由を考える。 ◆模擬店で出した中華料理が、いつから日本で作られるようになったか皆で話し合う(余裕があれば調べる)。</p>
教室外(人・モノ・情報)との連繋	他教科の内容との連繋	
近隣の中国人の多く住む団地、近隣の中国人の経営する中華料理店、文化祭模擬店の来客	学校行事としての文化祭	

授業	主な学習活動	留意点など
1回目	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の単元の学習到達点を生徒と確認する。 ・知っている中華料理を上げ、中国語の書き方、発音を学ぶ。インターネットで中華料理店のホームページをさがし、メニューを見て、料理名をまなぶ。 ・行ったことのある中華料理店の名前や様式について、日本のレストランとどこが違うか、話し合う。 ・数詞、量詞、月日、時間、お金の言い方を提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中華料理店のメニューのコピーを用意しておく。
2回目	接客、注文、会計の表現、料理の感想の表現を学ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・特に注文の表現は、次週中華料理店に取材に行くので、メニューを見ながら指さし注文ができるようにする。 ・役割を決めて注文の練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な表現のフラッシュカードなどを用意する。 ・ここでは注文の表現以外は発音できなくてもよい。
3回目	中国人経営の中華料理店に取材に行く <ul style="list-style-type: none"> ・店の様式、メニュー、接客の方法などを観察する ・中国人と日本人では注文品が違うか、接客が違うかなどをお店の人にきく ・メニューを見て理解し、指さして注文し、試食する。 ・店内の中国語を聞きながら学んだ表現を思い出す。 ・時間内に食べきれない場合は包んでもらう 	<ul style="list-style-type: none"> ・取材に行く料理店に、あらかじめ了解をとる。仕入れもここですることにする。
4回目	<ul style="list-style-type: none"> ・教室に戻り、実際の料理店で観察したことを出し合う。 ・日本のレストランと、中華料理店との違いは何か話し合う。 ・模擬店で出す料理を数種類決める。中国人の好みを反映させる。 ・接客、注文、会計に必要な表現は何かを考えながら、グループに分かれて店員と客のスキットを日本語でつくる。 ・ペアになって、料理の感想を尋ねたり、言ったりする。(形成的評価) ・互いに質問しあって料理の絵や写真と名称を結びつける。(形成的評価) 	<ul style="list-style-type: none"> ・スキットー中国語のどの表現をいつ使うのかを考えながら、日本語で作る。
5回目	<ul style="list-style-type: none"> ・接客、注文、会計の表現を練習する。 ・グループに分かれて店員と客のスキットを中国語で作り、書く。 ・役割を決めて練習する。 ・案内状のサンプルを見て、何が書いてあるか読み取る(形成的評価) ・中国語の案内状には何を書けばいいかを考え、グループごとに作ってみる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どの表現をいつ使うのかを覚える。 ・案内状のサンプルを2種類ぐらい用意する。
6回目	<ul style="list-style-type: none"> ・中国語の案内状最終版を作成する。原稿を書き、ワープロで作成する。(総括的評価) ・当日注文や会計で中国人の言葉が聞き取れなかったらどうするか、話し合う。 ・もう一度言ってください、ゆっくり言ってください、書いてくださいなどの中国語のカードを作っておく、など ・数詞、量詞、月日、時間、お金の言い方をカレンダーや時計を使って言う。(形成的評価) ・接客、注文、会計の言い方を繰り返し発音練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・案内状は、生徒の保護者には持ち帰りで、団地の人には各戸の郵便箱に入れる。 ・聞き取れなかった時の提示カードもワープロ作成する。 ・正確な発音をめざす。
7回目	<ul style="list-style-type: none"> ・お客さんへのアンケートに何を書いてもらうか話し合う。(何を食べたか・味はどうだったか・生徒の中国語はどうだったか・接客態度はよかったか、など) ・答えは「何を食べたか」以外は選択式(とてもよかった、よかった、あまりよくなかった)にする。 ・アンケートに必要な中国語を理解する。 ・店の飾りつけについて話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートに必要な表現は発音・筆記までは求めない。 ・アンケートは中国語と日本語の併記にする。
8回目	<ul style="list-style-type: none"> ・メニューとアンケートをPCで中国語と日本語併記で作成する。 ・当日にむけて、メンバー全員が接客できるように担当時間や順番を決めておく。 ・繰り返し発音練習をしたあと、ペアで客と店員のロールプレイをして本番にそなえる。(形成的評価) 	<ul style="list-style-type: none"> ・PCでの作成は教師が援助する ・店の内装作りと仕入れ作業は学校の文化祭準備時間を使う。

文化祭	<ul style="list-style-type: none"> ・お客さんがきたら、挨拶、接客、会計を中国語でする。(総括的評価) ・アンケートを回収する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・接客を評価する、あるいはビデオをとる。
9回目	<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭を振り返り、自分の接客について感想を言う。クラスメートで接客が上手だった人を上げる。優秀店員賞を授与する。 ・アンケートを読み、反省点を話し合う。 ・模擬店で出した料理についていつから日本で食べられているのか考えてみる。 ・今回の模擬店の企画、運営、成果、課題などについて日本語でレポートを書く。(総括的評価) 	<ul style="list-style-type: none"> ・優秀店員賞は生徒の投票で決める。